

◆編集後記+α

みなさんこんにちは。

2015 年度停車場編集委員長の高校二年、西山です。

停車場、いかがだったでしょうか。

今年度は昨年度と比べるとページ数が多くなり、内容も充実しました。

それに加え、高輪鉄研史上初の無線綴じという、ホッチキスを使わないで表から裏まで連なった表紙に本文を糊付けをして製本するという方法を使い、今までのホッチキス止めから脱却しました。

そのおかげで冊子自体の見栄えがよくなり、その上さらに頑丈なものになったのではないかと思います。

昨年度の停車場の編集後記で「来年は今年以上の、最高傑作と言われるような停車場を作る」と宣言しましたので、このような形にすることができてとても嬉しく思います。

次に目指すのはオールフルカラーといったところでしょうか。

予算が許さないとはいませんが。

実はこの停車場の無線綴じという外形、それこそ雑誌みたいで私の中では憧れでした。

高輪の鉄研のほかにも無線綴じをした部誌を配布する学校もあります。

ただそのようなところは部誌を有料で配布したり、オール白黒だったりします。

ここ最近では高輪の鉄研は私立中学の鉄研の中で注目され始めてきました。

「旅行がすごい！」「規模がでかい！」「だからここ気に入っているんです！」そういったことをよく耳にします。

そこで「部誌がすごい高輪鉄研！」とも言ってもらえることも願ったり願ってなかったりしてこんな形になりました。

実際、高輪の鉄研は人気になってきています。

私自身、生徒会役員として外務活動やオープンキャンパスの入試相談をしているのですが、そこで自分が鉄研に所属していることを話すとよく「実は私の息子も鉄道好きなのでこの鉄研が気に入っていて...」や「鉄研はどこがいいのかってママ友に聞いたら高輪がおすすめといわれまして...」といったことを本当によく聞くようになったと思います。

鉄研のホームページの更新を頻繁にやっている賜物かな、と思ったりもします。

私は鉄研で HP 班の HP 課に属していて、ホームページの更新をすることを主な活動にしているので、結構うれしかったりします。

またそういった入試相談で「ほかの鉄研と何が違うの？」とよく聞かれます。

私は鉄研そのものの規模と活動の規模に違いがあると思います。

まず部員数です。

部会の時には教室を埋め尽くしてしまうほど人数がいます。

その数なんと約60人です。

高輪での、中学生に人気のある(部員数)文化部ランキング1位に輝いているほどです。

活動の規模では、やはりHP班の存在でしょう。

一般的な鉄研は鉄道模型のモジュールを作るのを軸にして活動しています。

ですが私たちは二本柱です。

一つの柱はもちろん模型モジュールの制作です。

もう一方は「BVE」というものです。

駐車場の文章中でもしよっちゅうでできましたね。

BVEとはWindowsのパソコン上で動かせる、鉄道運転シミュレーターゲームのことで、我が鉄研のHP班ではこのBVEの南武線や京葉線の制作をしています。

詳しくは岸部長の文を見ていただければよくわかると思います。

さらに加えて旅行の規模です。

毎年の春夏冬に鉄研旅行を実施しているのですが、時には北海道へ、時には九州へ、時には都電のみならず会津鉄道やいすみ鉄道を貸し切るなど、とてつもなくアクティブです。

そのあたりがほかの鉄研との違いだと思います。

そんなこともあってか、文化祭の最優秀賞にあたる「高学祭賞」を3年連続でとったりし、高輪の顔にもなっています。

なんとうれしいことでしょうか。

もちろんここの鉄研に入って後悔をしたことはないですし、これを見てくれている受験生もこの鉄研に入って後悔をすることはないと思います。

ただし節度の持った行動をすることが要になるでしょう。

この学校の校訓で「自主堅正」というのがありますが、まさにそうだと思います。

今思えば、私が鉄研に入部したのは4年も前のことです。

当時の鉄研に対する考え方や思いは今とは全然違うものでした。

あの時先輩はこんなことをしていたんだな、こんなことを考えていたんだらうな、今となってはそう思います。

なので、座談会をしているときは話し合っていて少し懐かしく感じました。(閲覧により削除が多くてすみません...)

中学一年生、私はこの高輪学園に、ここの鉄研を目的として入学しました。

第一希望を高輪に据えていて、入学してこの学校に入って正解だなんて思いました。

少し昔のことを振り返ってみれば、中1から中2の夏までは模型班にいました。

時がたつのはとても早く、もう高校2年生です。

高2である私は今年の10月で鉄研を引退するのでこれが遺品みたいなものになります。

3年に渡り駐車場の編纂の中心で活動してきましたが、毎年作るたびに「来年はここをこうしよう」「これはこうしたほうがいい」というふうに、年々進化させてきました。

編纂二年目の頃には裏表紙をカラーに、今年度は無線綴じに、という具合です。

まだ色々手を加えていきたいものですが、来年からは後輩に全てを託します。

後輩から「ここまで駐車場のレベルを上げておいてここから先私たちにどうしろと？」

と言われますが、まあ頑張ってください。

生暖かい目で見守っています。

編纂・修正をしてくれた停車場編纂委員の皆、製本をしてくださった有限会社PSP様にはこの場を借りて感謝を申し上げます。

それではこの辺で停車場を閉じていただいて、また来年この鉄研へ訪れていただくことを願いつつ、この辺で筆を置きたいと思います。

今までありがとうございました。これからも鉄研をよろしくお願いします。

ちなみに下の写真はワンマン列車用の鏡を使って自撮りしました、はい。

あの早岐駅です。



Thank you for everyone.